別記様式第 2 号 別添

浜の活力再生プラン
令和６～１０年度
第３期

１　地域水産業再生委員会

組織名	吉佐地区地域水産業再生委員会
代表者名	田辺　寿之（山口県漁業協同組合吉佐統括支店　運営委員長）

再生委員会の構成員	吉佐統括支店（吉佐支店（東部・向島・野島・中浦・山口支所）、大海支店、嘉川支店） 防府市農林水産振興課、山口市水産港湾課 山口県山口農林水産事務所
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	【地域の範囲】防府市、山口市　(山口県漁協吉佐統括支店の地区) 【漁業の種類】小型機船底びき網漁業（44 名）、刺し網漁業（38 名）、建網漁業（78 名）、かご漁業（71 名）、一本釣漁業（17 名）、はえ縄漁業（18 名）、採介藻漁業（20 名）、たこつぼ漁業（23 名）、小型定置網漁業（6 名） 延べ人数 315 名　　正組合員 180 名　　（令和５年４月１日現在）

２　地域の現状

（１）関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は、山口県防府市及び山口市の周防灘に面しており、広範な干潟を有するほか、野島、佐波島、竹島などの島嶼部を含む岩礁域も多く、古くから優良漁場として多様な漁業が営まれてきた。このような中、アワビ・サザエ等の磯根資源や、小型機船底びき網漁業、刺し網漁業、建網漁業、かご漁業等によるハモ・ガザミ・エビ類・スズキ・タイ・キス・タコ等多様な魚種が漁獲されており、令和 4 年度の組合員による水揚げは、435 トン、408 百万円となっている。

一方、漁業就業者の減少（平成 29 年度正組合員 209 名→令和 4 年度正組合員 180 名）及び高齢化が進んでいる他、水産資源の減少等により地域全体の水揚量の減少も見られる上、海洋環境の変化により漁業生産の基本となるアマモ場、ガラ藻場の減少も続いている。また、消費者の魚離れによる消費の減退（特に地魚）に伴う魚価の低迷、さらには、近年の燃油や漁業資材の高騰

による漁業経費の増大など、漁業経営及び統括支店経営の悪化が懸念される。

このため、持続的な漁業の構築に向けて、資源管理の徹底、藻場の再生・保全、漁家経営の改善や漁業後継者対策に統括支店をはじめ漁業者が連携して取り組む必要がある。

支店に隣接する道の駅「潮彩市場防府」（以下、「潮彩市場」と記載）について、令和３年４月から山口県漁協（吉佐支店）が防府市より指定管理者として指定され、当施設の管理、運営を行っている。

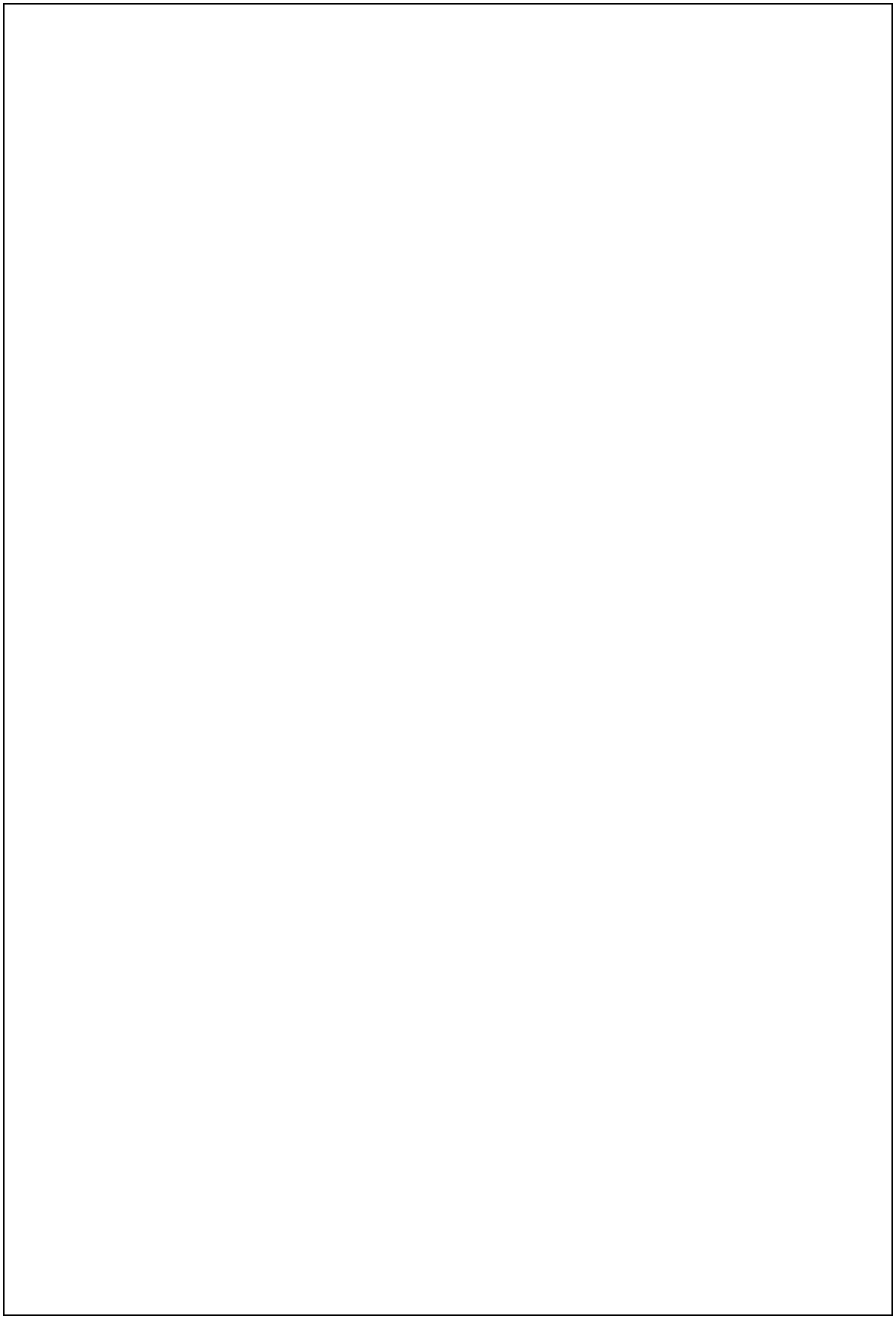
令和５年度、環境省の「令和の里海づくり」モデル事業の採択を受け、関係企業等と協働して、海藻(草)を食害するアイゴの増加をくい止め商品化することによって「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりを進めている。

（２）その他の関連する現状等

当統括支店が位置する山口市と防府市は、防府天満宮など歴史的構造物が多く、観光地として知られている。特に山口市は米紙ニューヨークタイムズ「2024 年に行くべき 52 ヶ所」で３番目に紹介されたことで更なる観光客の増加が見込まれ、地元水産物の消費が期待できることから、それらのニーズに応えた水産物の商品開発や販路開拓が必要と思われる。

３　活性化の取組方針

（１）　前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



（２）今期の浜の活力再生プランの基本方針

１　漁業収入向上のための取組

(1) 魚価向上の取組

①　リニューアルした防府市場を活用し高鮮度出荷を進めるとともに、衛生管理について広く消費者等に PR を行い、魚価の向上を図る。

②　防府市場の一次加工と潮彩市場の最終加工・販売の連携強化、大都市飲食店への販売の拡大、漁獲の多い時期・魚種について買い支えを進める。

③　大海地区直販所の取組を継続するとともに、各地域の道の駅などの直販所と連携し、組合員の漁獲物の販売を促進する。

(2) 資源管理、栽培漁業等の推進

①　山口県内海栽培漁業センターの老朽化した施設の更新や新規栽培対象魚種の取組等について検討を進める。

②　地栽協の中間育成や放流を継続するとともに、各支店・支所が実施している種苗放流を継続し資源の増大を図る。

③　秋穂地区（山口支所）のカキ養殖への取組を進めて区画漁業権取得を目指すとともに、関連機器の整備を進める。併せて、他地区においても貝類・藻類養殖取組の検討を進める。

④　組合員の高齢化により廃業者が出つつある小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。

(3) 藻場の再生・保全

令和 5 年度から実施している藻場の再生・保全の取組を継続・拡大する。また、この取組は地栽協を主体として進めることとし、ブルーカーボンクレジットの取得や地元企業等との連携を進め事業の持続を図る。

(4) 海業による漁業者の収入拡大

①　潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続する。特に潮彩市場にあっては、近隣にある「メバル公園」来場者(家族連れ)の取込による売上げ増を目指すとともに、「海の駅」登録について検討する。

②　秋穂地区(山口支所)においてレジャー施設を運営している事業者と海の適正利用について協議し共存を図るとともに、漁獲物を販売することにより魚価の向上を図る。

２　漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動等による省コスト化

①　適正速度による漁船の航行や定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を進める。

②　水産業競争力強化緊急事業を活用して、引き続き省エネ機器の導入を促進する。

(2) その他

①　海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁業への転換等、漁

業構造の再編を検討する。

② 秋穂漁港において、水揚げ作業の省力化、安全性の確保のため浮桟橋の設置に向け検討を進める。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 漁業人材の確保、育成

① 国、山口県が開催する漁業就業支援フェアに積極的に参加し、新規漁業就業者の確保を進める。

② 山口県が行う漁業士研修会への積極的な参加を促し、漁業士の資質向上を図るとともに、新たな漁業士候補の育成に努める。また、山口県漁青連防府支部の活動に積極的な参加を促し、若手漁業者の育成及び連携強化を進める。

(2) 交流人口の拡充

① 潮彩市場で定期的に行ってきたイベントを継続開催するとともに、「防府さかな祭り」を継続し、交流人口の増加、魚食普及等を推進する。

② 防府市・山口市が進める交流拡大の事業に協力して交流を増やすとともに、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。

③ 以上の取組に対し、防府市・山口市に対し、地域おこし協力隊員の派遣について協議・要請し効果を高める。

(3) 女性活動の促進

① 秋穂地区(山口支所)の女性部で進められてきた加工やイベントでの「タコめし」などの弁当販売を継続し、地域の活性化に寄与する。

② 「防府さかな祭り」が女性の活躍の場や女性間の連携の強化につながる場となるよう、女性部等の積極的な参加を促す。

③ 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。

(4) その他

① 地元の教育委員会と連携して、水産業や魚食の重要性、海洋環境の変化や海洋ゴミ問題等の理解を醸成する授業の導入を要請するとともに、学校給食に地元水産物を積極的に使用するよう要請する。

② 防府市事業により実施している海底ゴミ分別回収等を継続し漁場保全に努めるとともに、海洋ゴミ問題について地域をあげて取り組むよう防府市、山口市に働きかける。

（3）資源管理に係る取組

次の資源管理に係る山口県漁業調整規則等の規定・取組を確実に遵守し資源管理を推進する。

① 保護水面、禁止期間(ナマコ等)、全長制限(アサリ等)など山口県漁業調整規則の規定

② 小型機船底びき網漁業の禁止区域、禁止期間など漁業許可の条件の既定

③ キジハタの全長制限(30 ㎝)、トラフグの全長制限(20 ㎝)など山口県瀬戸内海海区漁業調整

委員会指示の規定 ④　休漁など山口県資源管理指針、資源管理計画の規定 ⑤　操業期間、殻長制限、建網漁業の漁具制限(網丈、網目等)など共同漁業権行使規則の規定 ⑥　建網漁業の操業期間など関係漁業者間の自主規制

（４）具体的な取組内容

１年目（令和６年度）　所得向上率（基準年比）　2%向上

漁業収入向上のための取組	(1) 魚価向上の取組 ①　リニューアルした防府市場を活用し高鮮度出荷を進めるとともに、衛生管理について広く消費者等に PR を行い、魚価の向上を図る。 ②　防府市場においてはハモを始めとした一次加工と潮彩市場への提供、山口県漁協本店と実施している大都市飲食店への販売拡大を進める。また、漁獲の多い時期、魚種について買い支えを行い、フィーレ処理及び凍結の上での販売、エソのミンチ加工等を拡大し、魚価の向上を図る。 ③　潮彩市場においてはハモ等の一次加工品の最終加工、直販店の取組を拡大し、併せてネット販売を推進し魚価の向上を図る。また、干物加工機器の導入及び実施を進める。 ④　令和 8 年度完成を目指し検討が進められている「道の駅あいお」の移設について、組合員の所得向上につながるよう積極的に協議に参画し、これを推進する。 ⑤　各地区の取組(大海地区直販所、秋穂地区加工等)を継続し、地域消費者に地魚を提供するとともに PR に努め、魚食普及を推進する。 ⑥　藻場の再生・保全に向け、未利用・低利用のアイゴやクロダイの商品化を進め魚価向上による持続的な漁獲を進める。併せて、これらの販売の取組について地元企業、大学生協等との連携を進める。 (2) 資源管理、栽培漁業等の推進 ①　吉佐統括支店栽培漁業推進協議会のクルマエビ、ヒラメの中間育成・放流やガザミ、キジハタ等の種苗放流及び各支店・支所が実施しているアワビ等の種苗放流、さらに企業の協力を得て実施している抱卵ガザミ再放流の取組を継続する。特にキジハタの放流は、近年整備された保護礁に行い、放流効果を高める。 ②　種苗放流に当たっては海洋環境の変化に配慮し、放流効果の期待できる魚種への転換を検討するとともに、遊休中間育成施設の有効利用について検討を行う。 ③　秋穂地区（山口支所）のカキ養殖について区画漁業権取得を行うとともに、関連機器の整備を進める。併せて、他地区においても貝類・藻類

	養殖取組の検討を進める。 ④　組合員の高齢化により廃業者が出つつある小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。 (3) 藻場の再生・保全 ①　令和5年度から実施している「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりの取組を継続・拡大する。特に、アイゴの商品化と駆除(ミール会社へ提供)を主体に藻場造成のための鋳鉄魚礁の設置等を行う。 ②　上記取組は磯根資源の栽培漁業の推進に関係することから、地栽協を主体として進めることとし、ブルーカーボンクレジットの取得や地元企業等との連携を進め事業の持続を図る。 (4) 海業による漁業者の収入拡大 ①　潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続・強化し、漁獲物の販売増及び魚価向上を図る。 ②　特に潮彩市場にあっては、「ハモっけ」「ハモバーガー」「めばる焼き」等の商品販売を継続する。また、必要に応じて商標登録を行い認知度の向上を図る。併せて、近隣にある「メバル公園」来場者(家族連れ)の取込による売上げ増を目指すとともに、「海の駅」登録について検討する等、集客力の強化を図る。 ③　秋穂地区(山口支所)においてグランピング施設(サップ等実施)及びリゾート施設(水上バイク実施)を運営している事業者と海の適正利用について協議し共存を図るとともに、漁獲物を販売することにより、魚価向上を図る。また、新たな計画についても協議を進め、同様な対応を行う。 (5) その他 ①　水産多面的機能発揮対策事業による赤潮、流木等の監視を継続し、漁業操業の安定に資する。 ②　組合員の安心・安全な漁業活動を維持するため、老朽化した漁港施設等の更新・整備を進める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①　適正速度による漁船の航行、定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を図る。 ②　水産業競争力強化緊急事業を活用して、引き続き省エネ機器の導入を促進する。 ③　組合員に対し漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、燃油価格の高騰に備える。 (2) その他 ①　海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁

	業への転換等、漁業構造の再編を検討する。 ② 秋穂漁港において、水揚げ作業の省力化、安全性の確保のため浮桟橋の設置に向け検討を進める。 ③ 利用が低下しつつある市場活魚水槽の活用を検討するとともに、組合員が共同で活魚を搬入する仕組みづくり等を進める。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保、育成 ① 国、山口県が開催する漁業就業支援フェアに積極的に参加し、新規漁業就業者の確保を推進する。 ② 山口県が行う漁業士研修会への積極的な参加を促し、漁業士の資質向上を図るとともに、新たな漁業士候補の育成に努める。また、若手漁業者に対し、山口県漁青連防府支部の活動に積極的な参加を促し、若手漁業者の育成及び連携強化を進める。 (2) 交流人口の拡充 ① 潮彩市場で定期的に行ってきたイベントや令和 5 年度から開始された「やまぐち農林業の知と技の拠点祭」と連携したイベントを継続し、交流人口の増加を図る。 ② 「防府さかな祭り」を継続し、交流人口の増加、水産業や海洋に関する理解促進を進める。 ③ 離島の野島地区(野島支所)において防府市が進めようとしている「離島体験」や「野島航路予備船を活用したクルーズ」に協力し、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。 ④ 以上の取組に対し、防府市・山口市に対し、地域おこし協力隊員の派遣について協議・要請し、効果を高める。 (3) 女性活動の促進 ① 秋穂地区(山口支所)の女性部で進められてきた「あいおの海老味噌」、「あいおの海老塩」「くるまえび塩」の取組を継続するとともに、イベント等を活用した「タコめし」などの弁当販売を継続し、地域の活性化に寄与する。 ② 「防府さかな祭り」が女性の活躍の場や女性間の連携の強化につながる場となるよう、女性部の積極的な参加を促す。 ③ 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。 (4) その他 ① 地元の教育委員会と連携して、小中学校で魚食の重要性、海洋環境の変化や海洋ゴミ問題等の理解を醸成する授業の導入を要請するとともに、学校給食に地元水産物の積極的な使用を要請する。また、潮彩市場

	への社会見学受け入れ時、上記課題等について紹介する。 ② 防府市事業の海底ゴミ分別回収等を継続し漁場保全に努めるとともに、ゴミ問題について地域をあげて取り組むよう防府市、山口市に要請する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、経営体育成総合支援事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、水産業競争力強化緊急事業、6次産業化ネットワーク活動交付金、漁業収入安定対策事業、「令和の里海づくり」モデル事業(環境省)、地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)

2年目（令和7年度）　所得向上率（基準年比）4%向上

漁業収入向上のための取組	(1) 魚価向上の取組 ① 防府市場における一次加工と潮彩市場への提供、大都市飲食店への販売、漁獲の多い時期・魚種に関する買い支えの取組を継続・拡大する。 ② 潮彩市場においてはハモ等の一次加工品の最終加工(干物加工を含む。)や直販店の取組を継続・拡大する。また、潮彩市場と国道2号線を結ぶ県道防府環状線が竣工の予定であり、アクセス向上が期待できることから、これを契機にイベント等を開催し集客範囲の拡大を図る。 ③ 潮彩市場の指定管理期間が令和8年3月31日に終了することから、再指定に向けて準備・申請を行う。 ④ 「道の駅あいお」の移設について、組合員の所得向上につながるよう積極的に協議に参画し、これを推進する。 ⑤ 各地区の取組(大海地区直販所、秋穂地区加工等)を継続する。 ⑥ 藻場の再生・保全に向けた未利用・低利用のアイゴなどの商品化の取組を継続・拡大する。 (2) 資源管理、栽培漁業等の推進 ① 地栽協や各支店・支所が実施している中間育成・放流、抱卵ガザミの再放流を継続する。併せて、種苗放流に当たっては海洋環境の変化に配慮し、放流効果の期待できる魚種への転換を検討する。 ② 秋穂地区（山口支所）のカキ養殖の拡大や他の貝類養殖を進める。併せて、他地区においても貝類・藻類養殖の取組の検討を進める。 ③ 小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。 (3) 藻場の再生・保全 地栽協を主体として「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりの取組を継続する。併せて、ブルーカーボンクレジットの取得や企業との連携により取組の持続を図る。 (4) 海業による漁業者の収入拡大

	① 潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続し、漁獲物の販売増及び魚価向上を図る。また、潮彩市場にあっては、「海の駅」登録について検討を進める。 ② 秋穂地区(山口支所)のレジャー施設運営者と海の適正利用に係る協議を継続し共存を図るとともに、漁獲物を販売することにより魚価向上を図る。 (5) その他 ① 赤潮、流木等の監視を継続し、漁業操業の安定に資する。 ② 組合員の安心・安全な漁業活動を維持するため、老朽化した漁港施設等の更新・整備を進める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 適正速度による漁船の航行、定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を図る。 ② 組合員に対し省エネ機器の導入を引き続き促すとともに、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促し燃油価格の高騰に備える。 (2) その他 ① 海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁業への転換等、漁業構造の再編を検討する。 ② 利用が低下しつつある市場活魚水槽の活用を検討するとともに、組合員が共同で活魚を搬入する仕組みづくり等を進める。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保、育成 ① 国、山口県が開催する漁業就業支援フェアに積極的に参加し、新規漁業就業者の確保を推進する。 ② 漁業士の資質向上及び新たな漁業士候補の育成、若手漁業者の山口県漁青連防府支部の活動に積極的な参加を引き続き進める。 (2) 交流人口の拡充 ① 潮彩市場で定期的に行ってきたイベント及び「防府さかな祭り」を継続し、交流人口の増加、水産業や海洋に関する理解促進を進める。 ② 離島の野島地区(野島支所)において防府市が進める「野島航路予備船を活用したクルーズ」等に協力し、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。 (3) 女性活動の促進 ① 秋穂地区(山口支所)女性部の取組、「防府さかな祭り」等への女性部の積極的な参加を継続・拡大する。 ② 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。 (4) その他

	①　地元教育委員会との連携を継続する。 ②　海洋ゴミ対策に関する取組を継続する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、経営体育成総合支援事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、水産業競争力強化緊急事業、６次産業化ネットワーク活動交付金、漁業収入安定対策事業、地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)

３年目（令和８年度）　所得向上率（基準年比）6%向上

漁業収入向上のための取組	(1) 魚価向上の取組 ①　防府市場における一次加工と潮彩市場の最終加工・販売や大都市飲食店への販売等の取組を継続・拡大する。 ②　新「道の駅あいお」において、漁獲物の販売、漁業・漁村のＰＲを進め、魚価の安定・向上を図る。 ③　各地区の取組(大海地区直販所、秋穂地区加工等)を継続する。 ④　藻場の再生・保全に向けた未利用・低利用のアイゴなどの商品化の取組を継続・拡大する。 (2) 資源管理、栽培漁業等の推進 ①　地栽協や各支店・支所が実施している中間育成・放流、抱卵ガザミの再放流を継続する。併せて、種苗放流に当たっては海洋環境の変化に配慮し、放流効果の期待できる魚種への転換を検討する。 ②　秋穂地区（山口支所）のカキ養殖の拡大や他の貝類養殖を進める。併せて他地区においても貝類・藻類養殖の取組の検討を進める。 ③　小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。 (3) 藻場の再生・保全 「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりの取組を継続・拡大する。 (4) 海業による漁業者の収入拡大 ①　潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続し、漁獲物の販売増及び魚価向上を図る。また、潮彩市場にあっては、「海の駅」登録について検討を進める。 ②　秋穂地区(山口支所)のレジャー施設に対する取組を継続する。 (5) その他 ①　赤潮、流木等の監視を継続し、漁業操業の安定に資する。 ②　組合員の安心・安全な漁業活動を維持するため、老朽化した漁港施設等の更新・整備を進める。

漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 適正速度による漁船の航行、定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を図る。 ② 組合員に対し省エネ機器の導入を引き続き促すとともに、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促し燃油価格の高騰に備える。 (2) その他 海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁業への転換等、漁業構造の再編を検討する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保、育成 新規漁業就業者確保、漁業士の育成、若手漁業者の連携強化の取組を継続する。 (2) 交流人口の拡充 ① 潮彩市場のイベント、「防府さかな祭り」の取組を継続し、交流人口の増加等を引き続き進める。 ② 離島の野島地区(野島支所)において防府市が進める「野島航路予備船を活用したクルーズ」等に協力し、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。 (3) 女性活動の促進 ① 秋穂地区(山口支所)女性部の取組、「防府さかな祭り」等への女性部の積極的な参加を継続・拡大する。 ② 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。 (4) その他 ① 地元教育委員会との連携を継続する。 ② 海洋ゴミ対策に関する取組を継続する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、経営体育成総合支援事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、水産業競争力強化緊急事業、６次産業化ネットワーク活動交付金、漁業収入安定対策事業、地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)

４年目（令和９年度）　所得向上率（基準年比）8%向上

漁業収入向上のための取組	(1) 魚価向上の取組 ① 防府市場における一次加工と潮彩市場の最終加工・販売や大都市飲食店への販売等の取組を継続・拡大する。 ② 各地区の取組(大海地区直販所、秋穂地区加工、道の駅との連携等)を継続する。 ③ 藻場の再生・保全に向けた未利用・低利用のアイゴなどの商品化の取組

	を継続・拡大する。 (2) 資源管理、栽培漁業等の推進 ① 地栽協や各支店・支所が実施している中間育成・放流、抱卵ガザミの再放流を継続する。併せて、種苗放流に当たっては海洋環境の変化に配慮し、放流効果の期待できる魚種への転換を検討する。 ② 各地区において、貝類・藻類養殖の取組の検討を進める。 ③ 小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。 (3) 藻場の再生・保全 「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりの取組を継続・拡大する。 (4) 海業による漁業者の収入拡大 ① 潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続し、漁獲物の販売増及び魚価向上を図る。 ② 秋穂地区(山口支所)のレジャー施設に対する取組を継続する。 (5) その他 ① 赤潮、流木等の監視を継続し、漁業操業の安定に資する。 ② 組合員の安心・安全な漁業活動を維持するため、老朽化した漁港施設等の更新・整備を進める。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 適正速度による漁船の航行、定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を図る。 ② 組合員に対し省エネ機器の導入を引き続き促すとともに、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促し燃油価格の高騰に備える。 (2) その他 海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁業への転換等、漁業構造の再編を検討する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保、育成 新規漁業就業者確保、漁業士の育成、若手漁業者の連携強化の取組を継続する。 (2) 交流人口の拡充 ① 潮彩市場のイベント、「防府さかな祭り」の取組を継続し、交流人口の増加等を引き続き進める。 ② 離島の野島地区(野島支所)において防府市が進める「野島航路予備船を活用したクルーズ」等に協力し、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。 (3) 女性活動の促進 ① 秋穂地区(山口支所)女性部の取組、「防府さかな祭り」等への女性部の

	積極的な参加を継続・拡大する。 ② 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。 (4) その他 ① 地元教育委員会との連携を継続する。 ② 海洋ゴミ対策に関する取組を継続する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、経営体育成総合支援事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、水産業競争力強化緊急事業、６次産業化ネットワーク活動交付金、漁業収入安定対策事業、地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)

５年目（令和１０年度）　所得向上率（基準年比）10%向上

漁業収入向上のための取組	(1) 魚価向上の取組 ① 防府市場における一次加工と潮彩市場の最終加工・販売や大都市飲食店への販売等の取組を継続・拡大する。 ② 各地区の取組(大海地区直販所、秋穂地区加工、道の駅との連携等)を継続する。 ③ 藻場の再生・保全に向けた未利用・低利用のアイゴなどの商品化の取組を継続・拡大する。 (2) 資源管理、栽培漁業等の推進 ① 地栽協や各支店・支所が実施している中間育成・放流、抱卵ガザミの再放流を継続する。併せて、種苗放流に当たっては海洋環境の変化に配慮し、放流効果の期待できる魚種への転換を検討する。 ② 各地区において、貝類・藻類養殖の取組の検討を進める。 ③ 小型定置網漁業の継続を進めるとともに、新規着業について検討する。 (3) 藻場の再生・保全 「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりの取組を継続・拡大する。 (4) 海業による漁業者の収入拡大 ① 潮彩市場及び大海地区の直販所の加工・販売の取組を継続し、漁獲物の販売増及び魚価向上を図る。 ② 秋穂地区(山口支所)のレジャー施設に対する取組を継続する。 (5) その他 ① 赤潮、流木等の監視を継続し、漁業操業の安定に資する。 ② 組合員の安心・安全な漁業活動を維持するため、老朽化した漁港施設等の更新・整備を進める

漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 適正速度による漁船の航行、定期的な船底清掃の確実な実施等を進め、燃油使用量の削減を図る。 ② 組合員に対し省エネ機器の導入を引き続き促すとともに、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促し燃油価格の高騰に備える。 (2) その他 海洋環境変化の状況を見ながら、特定漁種の操業隻数の削減、他の漁業への転換等、漁業構造の再編を検討する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保、育成 新規漁業就業者確保、漁業士の育成、若手漁業者の連携強化の取組を継続する。 (2) 交流人口の拡充 ① 潮彩市場のイベント、「防府さかな祭り」の取組を継続し、交流人口の増加等を引き続き進める。 ② 離島の野島地区(野島支所)において防府市が進める「野島航路予備船を活用したクルーズ」等に協力し、漁村の魅力や水産業のＰＲを行う。 (3) 女性活動の促進 ① 秋穂地区(山口支所)女性部の取組、「防府さかな祭り」等への女性部の積極的な参加を継続・拡大する。 ② 漁獲物の一次処理や加工を希望する女性に潮彩市場の加工場を提供する等、魚価向上や魚食普及に関する女性の活躍を促進する。 (4) その他 ① 地元教育委員会との連携を継続する。 ② 海洋ゴミ対策に関する取組を継続する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業、経営体育成総合支援事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、水産業競争力強化緊急事業、６次産業化ネットワーク活動交付金、漁業収入安定対策事業、地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)

（５）関係機関との連携

(1) 山口県・防府市・山口市の長期振興計画と整合を図るとともに、支援・協力を得ながら、地域水産業の振興や地域活性化を進めていく。

(2) 山口県漁業協同組合本店と連携しながら県内外の流通・販売業者との取引拡大を図る。

(3) 藻場の再生・保全の取組について、「令和の里うみづくり」モデル事業で協働した企業・一般社団法人等との実施を継続する。また、新たに地元企業・地元飲食業界・大学・商工会議所等との連携を強化して取組の拡大を図る。

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

プラン取組の実施状況及び効果の発現に関する評価は自ら行い、毎年６月に「浜の活力再生プラン評価検討委員会(山口県、防府市、山口市、統括支店、統括支店運営委員会で構成)」を開催して審議を行う。

４　目標

（１）所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

（２）上記の算出方法及びその妥当性

（３）所得目標以外の成果目標

①　アイゴ単価	基準年	令和5年度：　出荷はされていない。　円／kg
	目標年	令和10年度：　300　円／kg

②　新規漁業数就業者の確保	基準年	平成31～令和5年度平均：　1．8　名／年
	目標年	令和6～10年度平均：　2　名／年

（４）上記の算出方法及びその妥当性

①　「美味しく食べながら里海を守る」好循環な藻場づくりを進めるためもあり、漁業者が操業の中で出荷できる体制を維持するため、アイゴについて 300 円／kgの買取を目指す。

② 正組合員 180 名中、80 才以上 32 名、75～79 才 28 名、70～74 才 42 名と高齢化しており、5 年間の正組合員減少見込数 50 名に対し、5 年間でその 20%となる 10 名（1 年あたり平均 2 名）の新規漁業就業者確保を目指す。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事 業 名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築事業(国)	内容：国と漁業者の拠出により、燃油価格などが高騰したときに補填金を交付する。 → 漁業経営基盤の強化において、プランの取組全体を支える。
経営体育成総合支援事業(国)	内容：漁業への新規参入、漁業継続の環境整備を進め、漁業の高付加価値化を担う人材を確保・育成する。 → 漁業者の減少・高齢化は大きな課題であり、プランにおいて、新規漁業就業者の確保、人材育成を進めることとしている。
水産多面的機能発揮対策事業(国)	内容：漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する活動に対し国が支援を行う。 → プランにおいて、赤潮や流木等の監視を行い漁業操業の安定に資することとしている。
水産業競争力強化緊急事業(国)	内容：生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器の導入等について支援を行う。 → プランにおいて、漁業コスト削減のための取組を行うこととしている。
水産業強化支援事業(国)	内容：水産業の健全な発展と水産物の安定供給の確保に向け、産地水産業強化計画に基づいてソフト・ハードの支援を行う。 → プランにおいて、課題克服に係る施設の整備・再編を進めることとしている。
6 次産業化ネットワーク活動交付金(国)	内容：多様な事業者によるネットワークを構築して取り組む新商品開発や販路開拓、加工・販売施設の整備等を支援する。 → プランにおいて、潮彩市場等の新たな加工品創設等の取組強化を進めることとしている。
漁業収入安定対策事業（国）	内容：計画的に資源管理等に取り組む漁業者に対し、漁獲変動等に伴う減収を補填するとともに、漁業共済への加入を推進する。 → プランにおいて、資源管理を推進することとしている。
「令和の里海づくり」モデル事業(環境省)	内容：瀬戸内海等の閉鎖性水域で、生物多様性や生物生産性を確保する豊かな「令和の里海づくり」活動を推進する。 → プランにおいて、藻場の再生・保全活動を推進することとしている。

地域を牽引する中核漁業経営体育成推進事業(県)	内容：経営専門家の指導を受けた収益性向上に向けた取組に対し、機器、施設等の整備を支援し取組の拡大を図る。 →　プランにおいて、収益性向上の取組を推進することとしている。